

【成果情報名】「さちのか」の長崎型高設栽培における主要害虫の発生特性

【要約】イチゴ「さちのか」の長崎型高設栽培においては、アブラムシ類とハダニ類が地床栽培に比べて発生が多い。一方、ハスモンヨトウは10月下旬以降になると地床栽培より少なくなる傾向にあり、アザミウマ類は全般的に少なく推移する。

【キーワード】イチゴ、高設栽培、長崎型、さちのか、主要害虫

【担当】総合農林試験場・環境部・病害虫科

【連絡先】電話0957-26-3330、電子メール m.komine@pref.nagasaki.lg.jp

【区分】野菜（生産環境）

【分類】指導

【背景・ねらい】

近年、イチゴの生産においては、高設栽培の導入により省力化や規模拡大が図られている。また、栽培品種も本県では、従来の「とよのか」から「さちのか」への転換が図られており、このような栽培様式や品種の変化は、病害虫の発生様相に大きな影響をもたらすことが多い。

そこで、今後、推進が見込まれる長崎型高設栽培の「さちのか」において、効率的な病害虫防除対策を行うため、栽培様式および品種間における主要害虫の発生特性を明らかにする。

【成果の内容・特徴】

1. イチゴの長崎型高設栽培においては、アブラムシ類が「さちのか」、「とよのか」とともに、地床栽培より密度増加時期が早く、発生量が多い（図1）。
2. また、ハダニ類は、高設栽培の「さちのか」において、密度増加時期が早く、発生量が多い傾向にある（図2）。
3. ハスモンヨトウは「さちのか」、「とよのか」とともに、地床栽培と発生時期は同じであるが、10月下旬以降発生量は少ない傾向にある（図3）。また、果実の被害も少ない（データ省略）。
4. アザミウマ類は「さちのか」、「とよのか」とともに、地床栽培より密度増加時期が遅く、発生量は全般的に少なく推移する（図4）。

【成果の活用面・留意点】

1. いずれの試験も同一条件で育成した苗（品種）を植え付けて行ったものであり、本圃においてはハスモンヨトウを除いては、薬剤等無防除でのデータである。
2. 高設栽培と地床栽培における害虫の発生の違いには、温度や湿度、侵入経路の違いおよび太陽シートの影響等が考えられ、また、「さちのか」と「とよのか」との品種間における違いには、草姿（立性、開張性）、葉の形や大きさ、草勢、害虫の嗜好性および植物体内の栄養状態等が関与していると考えられ、今後詳細について明らかにする必要がある。

[具体的なデータ]

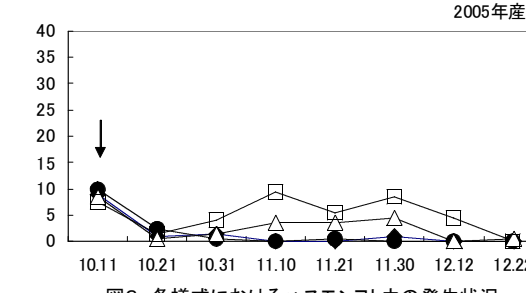
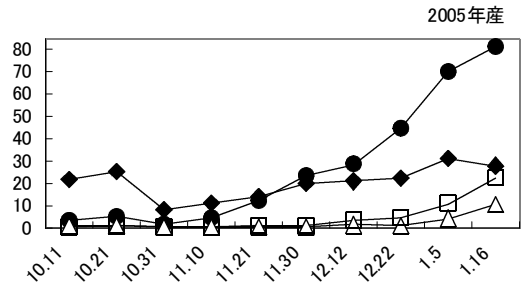
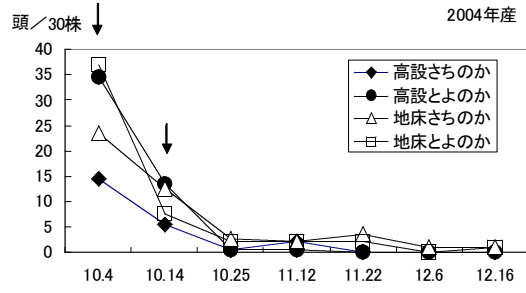
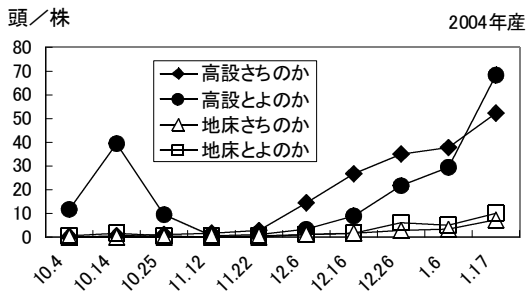


図1 各栽培様式におけるアブラムシ類の発生

図3 各様式におけるハスモンヨトウの発生状況
矢印はロムダンフロアブル散布

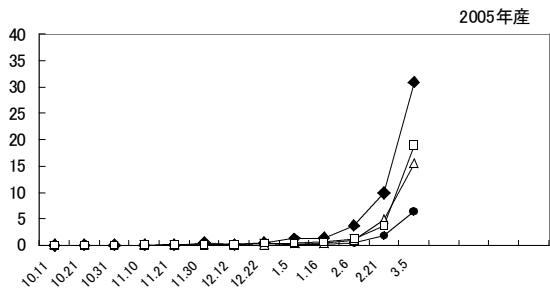
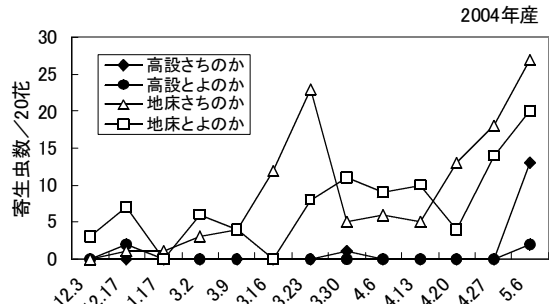
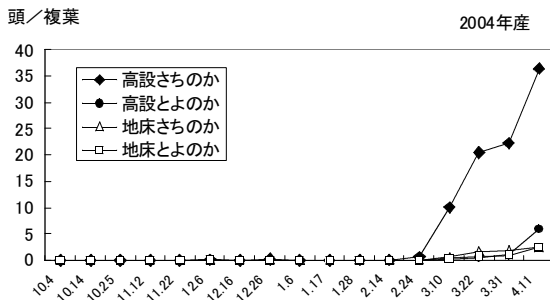


図4 各栽培様式におけるアザミウマ類の発生状況

図2 各栽培様式におけるハダニ類の発生状況

耕種概要

	高設		地床	
	さちのか	とよのか	さちのか	とよのか
定植	2004年9月21日 2005年9月26日	2004年9月16日 2005年9月22日	2004年9月21日 2005年9月26日	2004年9月16日 2005年9月22日
施肥	長崎県の基準に準じる さちのかはとよのかの7割		長崎県の基準に準じる さちのかはとよのかの7割	
管理	温度管理は最低温度8℃ 地温は16℃ その他の管理は各区同様に行った		温度管理は最低温度8℃ — その他の管理は各区同様に行った	
その他	太陽シート設置			

[その他]

課題課題名：イチゴ高設栽培における病害虫の効率的・総合管理技術の開発

予算区分：県単

研究期間：2004～2008年度

研究担当者：小嶺正敬、内川敬介